

とちぎ食の安全ネットワーク

食の安全性を確保し高めるためには、食の安全を担保する上で、行政によるリスク分析と、社会的な関係者によるネットワーク間での連携が欠かせません。ネットワーク世話人会では、団体間での情報交換と啓発を目的とした学習会を開催しました。また、全体会を開催し、県民に向けて食の安全に関する情報の啓発を行いました。



世話人会学習会「(最近の食中毒の主役)カンピロバクターとノロウイルス」
全体会学習会「放射線照射食品の現状と予想される今後の動向」

宇都宮大学名誉教授 宇田 靖 氏

食品への放射線照射については、全く知識がありませんでしたが、本日の学習会によって基礎的な知識を得ることができました。 (参加者アンケート)

とちぎ消費者ネットワーク

消費者問題に関して、消費者・消費者団体、弁護士、司法書士等専門家、並びに関係諸機関との連携を図りつつ、消費者への情報提供・啓発、消費行政に関する研究・提言などを行い、消費者の権利の実現に寄与することを目的としています。ネットワーク幹事会では、消費者問題の現状や課題を理解するため、学習会を開催しました。また、若者への消費者教育・啓発及び、消費者トラブルの未然防止と消費者問題解決力を身に付けてもらうことを目的に、栃木県より受託した「とちぎ消費者カレッジ」は4年目の取り組みとなり、8校10会場で1101名が受講しました。

幹事会学習会	1月 成年後見人制度を活用して消費者被害を防ごう・成年後見人制度のイロハ 弁護士 小倉 崇徳 氏
	3月 高齢者の消費者被害の実態と見守りの重要性～最近のトラブル事例から～ NPO 法人とちぎ消費生活サポートネット理事長 葛谷 理子 氏
消費者カレッジ 開催校 (8校)	・自治医科大学 ・佐野短期大学 ・宇都宮大学(2会場) ・作新学院大学(2会場) ・國學院大学栃木短期大学 ・宇都宮共和大学 ・栃木県農業大学校 ・作新学院大学女子短期大学部 〈農業大学校でのカレッジの様子が、とちぎテレビの夕方のニュース内で放映されました〉

その他

NPO 法人とちぎ消費者リンクの活動 【適格消費者団体認定を目指し活動しています】

毎月1回事例検討会を開催し、様々な消費者問題を取り扱っています。2016年10月～2017年3月の間に、問題が疑われる業者2社(2件)に対して文書で申し入れを行いました。

消費者リンク第2回通常総会

2017年4月22日(土)14:00～16:00(弁護士会館)
記念講演:地域で防ごう高齢者被害
～回れ回れそう見守りネットの輪～
講師:千葉マリン法律事務所 拝師 徳彦 弁護士

2月23日、食と農を考えるフォーラムが開催されました

主催・JAグループ栃木、後援・栃木県生協連で「食と農を考えるフォーラム」を開催し、約400名が参加しました。基調講演「ごはんを食べて元気に若々しく」に続き、JAと生産者が「地域農業を守るための取り組み」を報告しました。

とちぎ子育てネットワーク

とちぎ協働まつり(10月開催)会場で、子育て層を対象にしたアンケート「こんな施設あったらいいな」の集計結果を「栃木市女性議員の会」にご報告しました。

下記審査会に審査委員として出席しました

- 第13回下野ふるさと大賞審査会(主催・下野新聞社)
- 全漁連 青年女性交流大会審査会(主催・全国漁業協同組合連合会)

2016年度・第38回ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金	
プリズトン那須グループ生協	4,035
栃木県職員生協	15,566
よつ葉生協	5,903
栃木県生協連	13,261
合計	¥38,765

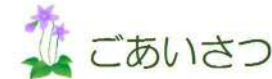
とちぎの生協

〒320-0024 栃木県宇都宮市栄町1-15 栃木県開発センタービル 2階

TEL:028-624-6650 FAX:028-624-6652

http://tochigikenren-coop.com Eメール info@tochigikenren-coop.com

VOL.21 春号



栃木県生活協同組合連合会 会長理事 竹内明子

二十世紀は二度の世界大戦を始めとして、世界の至る所で戦争が起こり、生命にも環境にも多くの被害と犠牲をもたらした世紀でした。第二次世界大戦後も東西冷戦では、共産主義社会と資本主義社会の対立から大戦に至らずとも幾つもの大きな争いが派生し、多くの傷を残しました。その後の共産主義社会の崩壊とそれに伴う様々な民族問題、更に国家間の覇権争いなど、けして世界中の人々が心豊かに暮らせていたとは言えない世界状況であったと思います。重工業及び金融を中心とする急激な経済成長と拡大は、生活の利便性をもたらしたかもしれませんが、現在にも続く環境破壊を引き起こしていますし、南北問題と言われる国家間の格差も生じています。

な世界とは程遠い状況にあると言わざるを得ません。日本においても貧富の差は明らかに拡大し、かつて縦中流社会と言われた残像はありません。人が豊かに暮らして行くためには、経済にも社会にも問題が山積しています。

国連は、二〇一二年を国際協同組合年に設定しました。そしてその決議で、協同組合は「人々の経済社会開発への最大限の参加を促している」とし、「持続可能な開発、貧困の根絶、都市・農村におけるさまざまな経済部門の生計に貢献できる事業体・社会的企業」と評価しました。また二〇一六年には、協同組合がユネスコの世界文化遺産に登録されました。その登録にあたり、「共通の利益と価値を通じてコミュニティづくりを行うことができる組織であり、雇用の創出や高齢者支援から都市の活性化、再生可能エネルギープロジェクトまで、さまざまな社会的問題への創意工夫あふれる解決策を編み出している」と評価されました。このように評価されている根底には、協同組合が命を第一義とし、人と人が、人と自然が共に在ること、そして活動に参加することを使命としていることがあります。私たちはこの使命を果たして行くことを最前に掲げ、豊かな社会にして行くために、私たちがかつて描いた賢明な二十一世紀を創るために、二〇一七年も現実社会の中でさまざまな取り組みを行っていきます。

また国内においても、バブル崩壊以降、貧富の差は拡大する一方でセーフティネットの不全など様々な経済、社会問題が噴出し、世紀末の一九九〇年代にはそうした状況は悪化していました。しかし、そのような社会状況の中でも近づく二十一世紀に対する展望は明るく、二十世紀の暴力による支配や肥大した様々な社会的問題を克服できる賢明な世紀を目指して行ける、行こうとする希望が世の中にあったように思います。

しかし、今世紀は前世紀の延長上にしか存在せず、負の遺産を世紀の切り替えで解消することはできませんでした。今、私たちが生きる現実の社会は、賢明

第48回栃木県生活協同組合連合会総会 開催のお知らせ

日時:2017年6月30日(金)14時開始

会場:宇都宮ホテル丸治 7階

(〒320-0033 栃木県宇都宮市泉町1-22)

1月、賀詞交歓会を開催しました

新年のご挨拶と、生協への理解を深めていただくこと、相互の連携強化を図ることを目的としています。県知事の福田富一様をはじめ、衆参議員、県議会議員、並びに、議員秘書の皆様や、行政、学識者、協同組合、NPO法人等から66名の皆様にお集まりいただき、和やかに交流が行われました。

また、年頭のご挨拶に栃木県県民生活部・農政部、及び保健福祉部を県連の役員で訪問しました。



くらし部会の活動



生活クラブ生協、よつ葉生協、とちぎコープの3生協で部会を構成し、暮らしに関する様々な活動を行っています。1月に有機農法・生物多様性の学習会を開催しました。演題は「農薬そして遺伝子・放射能汚染から子供たちを守る有機農業者の取り組み」。上三川町で長年有機農業を行われている「NPO法人民間稲作研究所理事長 稲葉 光國 氏」に講師をお願いし、実体験に基づく貴重なお話を伺いました。有機農業の持つ様々な価値を、もっと地域に広めていく必要を感じる学習会となりました。

福祉部会を開催しました

地域の方々のニーズを探り、生協としての課題を見出すため「暮らしのためのお役立ちアンケート」を参加団体毎に実施することにしました。また、小山市の生活支援体制整備(地域包括ケア)に向けた取り組みについて、こらぼワーク理事長の佐藤氏よりお話しいただきました。

<参加者・団体…佐野短期大学教授 山田昇氏、全労済栃木、保健医療生協、社会福祉事業団こらぼワーク、ふれあいコープ、とちぎコープ、よつ葉生協、生活クラブ生協、栃木県生協連(事務局)>

理事会、常務理事会を開催し、議案は全て確認されました。

■定例理事会 2月14日、4月11日 ■常務理事会 1月17日、3月14日、4月4日

行政の懇話会、協議会、審査会、会議、学習会に参加しました(1月～3月)

- 栃木県食の安全安心推進会議 ■宇都宮市食品安全懇話会 ■小山市地産地消食育推進協議会総会
- 栃木子どもエコクラブ壁新聞審査会(審査委員)
- 栃木県主催 「食品表示のここがポイント」～食品表示に関する基礎ルールと留意事項～
- 宇都宮市主催 「食品安全講演会 食の安全について学ぼう」

役職員に向けた学習会

理事・幹部職員定期学習会

暮らしの中にある様々な問題とその背景を知り、事業や活動に活かすことを目的に、会員生協の役職員を対象にした学習会を定期的に開催しています。

第5回	JA改革と地域農業の課題 宇都宮大学農学部 教授 秋山 満 氏
第6回	日本人が知らない漁業の大問題 ～水産物を巡る「食」の現代的課題～ 鹿児島大学水産学部 教授 佐野 雅昭 氏
第7回	森林・林業の現状と課題 -作り上げた人工林をどう役立てるか- 宇都宮大学農学部 教授 山本 美穂 氏



第7回学習会の様子

「沖縄の戦跡と現状」視察研修

昨年に引き続き、沖縄視察研修を実施しました。今回は、珊瑚の保全活動で環境大臣賞を受けた恩納村漁協も訪れました。辺野古視察や高江地区(ヘリパット建築)の現状を伺い、普通の人が普通に暮らすことができない現実を知り、自治のあり方について疑問を感じずにはいられませんでした。本土では沖縄の情報が皆無に等しい状況だからこそ、足を運び実際に見ることの重要性を感じるとともに、生協としての政策や平和の取り組みを考える上で、実体験を通して知ること、考えることが大切と感じる視察となりました。



	3月11日(土)	3月12日(日)	3月13日(月)
視察行程	<ul style="list-style-type: none"> 轟の壕(糸満市) ひめゆりの塔(祈念資料館) 魂魄の塔 沖縄県平和祈念資料館 平和の礎 	<ul style="list-style-type: none"> 宜野湾嘉数高台公園 辺野古・大浦湾・キャンプ・シーワグ前 名護市内一恩納村一読谷村 座喜味城址 嘉手納米軍飛行場 首里城及び司令部壕 	<ul style="list-style-type: none"> 恩納村漁協にて、活動の説明 昨年県連でご講演頂いた榊井ゲタ竹内は「CO-OP味付もずく」の製造業者で、漁協はその材料を生産しています。モズクの養殖には栄養分や酸素を作り出す珊瑚は必要不可欠。生協組合員も一緒に珊瑚を増やす取り組みを行っています。

最終回

3月4日いわき市四倉仮設住宅で第52回お茶会を開催しました。



町の中心部から離れていて、支援が入りにくい仮設住宅があるとの情報を得て開始した四倉お茶会が、3月末の仮設閉鎖に伴い終了しました。

昨年1月、お茶会で米寿のお祝いをしたHさんは「一人暮らしになってしまったので、ここで皆とお喋りしたり、一緒に手芸をしたり、本当に楽しみにしていた」とおっしゃり、全員が「ここで繋がった人たちと離れるのが寂しい」と別れを惜しんでいました。



下野新聞社の取材

「避難所から避難所へ、数えきれないくらい移動した」とか、原発事故前は息子夫婦と一緒に暮らしていたのに、狭い仮設で同居できず離れた事が原因で、互いの生活の形が変わり「もう一緒に住むことはできない」というお話しなど、避難生活の問題点等を都度教わりました。狭く長すぎる「仮住まい」が終わることは1つの改善なのかもしれませんが、また新たな問題があり、今後も一人ひとりに寄り添った支援が必要となっています。(参加団体…とちぎコープ/よつ葉生協/NPO法人ウィズ/栃木県生協連)

2012年3月～2017年3月
月1回、土曜日開催
参加者のべ590名
スタッフのべ527名



主に広野町から避難されて来た方たちの仮設住宅は、当初100世帯を超え、小さな子どもたちがお茶会に参加することもありましたが、今は35世帯ほどになり、毎回10名前後の方が参加されていました。

4月8日福島県浪江町を視察しました(参加者…4団体17名、同行説明…浪江町の住民と町議)

帰還困難区域を除く地域の避難が3月末に解除された浪江町を訪れました。漁港から、平坦な農地を抜けて、山間地へと続く浪江は自然の恵み豊かな町で、震災前人口は約21,500名。避難解除区域は除染が進み、原発から8kmの役場回りの空間線量は当日0.05μシーベルトでしたが、戻ってきた住民は200名程度です。もし火事になっても、消防団員の不足で消火もできないとお聞きしました。原発事故の影響で、壊れた家や道路は手つかずの箇所が多く、除染ゴミを詰めたフレコンの仮置き場があちこちを占拠し、復興は道半ばです。それでも、海を一望できる大平山には公園も整備され「6年経って、ずっと気がかりだった慰霊碑を、やっと建てる事ができた」と町議の渡邊さん。原発が見えない場所を選んで建てたとのことでした。町民アンケートでは「(町へ)戻らないときめている」住民が約5割。楽観はできませんが、10年先の町を描き、帰還する住民の為に環境を整えようと、町長も町の議員も職員も奮闘されています。東電の原発からの電力は福島県ではなく、首都圏へ供給されていた事実を改めて考え、今後も個人的、組織的に支援をしていこうという想いを共有しました。



ご挨拶される馬場町長さん



以前、宇都宮で開催していた支援お茶会の代表にご尽力いただき、浪江町の渡邊町議も同行され、帰還困難区域も視察することができました。放置された農地は野山と境がなくなり、ホットスポットが確認され、我が家であっても様々な規制によって自由に入ることが許されず、荷物を持ち出すこともできません。